



ぐんまの消防



表紙写真 渋川広域消防本部訓練風景

地域住民の安心・安全のために



群馬県のマスコット
「ぐんまちゃん」
許諾第2019-100614

第38号
令和元年度発行

団長の熱き思い



郷土のために

渋川市消防団 団長 桑原 良雄

日本のまんなか水と緑といで湯の街渋川は、雄大な関東平野の始まる位置にあります。

地形は、赤城山、榛名山、小野子山に抱かれ、利根川と吾妻川の流れによって形成され、谷地とともに、面積二四〇・二七平方キロメートル、標高差一、四〇〇メートル以上となる起伏に富んだ地形を有し、地区の大半が自然的土地利用で占められています。

渋川市消防団は、三十分団八二五名(令和元年十月一日現在)にて構成しています。

消防団活動は、近年の異常気象の影響により、多種多様化の一途をたどっております。

渋川市は、利根川と吾妻川の合流地点であるため、集中豪雨の際には河川の上昇が懸念され、水防団としての活動も重要な役割となります。

二〇一八年から水防訓練を実施するほ

か、各種訓練や装備の充実はもちろん、各地区の防災会で行われる火災訓練等では、地元分団が参加し連携を密にしております。

地域によつては、土砂災害等が懸念される地区があり、日頃からのバトロール等が必要となつてきております。

消防団活動「自分達の街は自分達で守る」という精神で地元密着の消防団として防火啓発運動、自主防災訓練、行方不明者の捜索及び地元行事への積極的な協力などの活動をすることによって、災害に強い街づくりに繋がると考えております。

今後、消防団の重要性が広く認識されていく中で、訓練と教養を重ね、地域の防災リーダーとして地域住民の安心安全を守るという使命を遂行するために各種関係機関と連携を密にして活動していかなければならないと強く考えております。

令和元年度表彰

長年にわたる消防業務のご功績により叙勲及び表彰された方々をご紹介します。

瑞宝小綬章

元前橋市消防正監 千木良 充
元太田市消防正監 青木 節雄
元伊勢崎市消防正監 清水 政利

瑞宝単光章

元桐生市消防団 団長 青木 仁郎
元大泉町消防団 団長 島田 金壽
元安中市消防団 団長 原田 光男
元片品村消防団 団長 星野 充雄
元高崎市消防団 副団長 横田 隆一
元桐生市消防団 副分団長 岩崎 良夫
元前橋市消防団 分団長 遠藤 捷夫
元高崎市消防団 副団長 関口 照文
元高崎市消防団 副団長 高橋慎一郎
元前橋市消防団 分団長 町田 哲也

藍綬褒章

高崎市消防団 副団長 長谷川 亘
高崎市消防団 副団長 小林 浩二
伊勢崎市消防団 副団長 依山 英明

県功労者表彰

桐生市消防団 団長 根岸 佐年

県総合表彰

上野村消防団 団長 今井 和久
高崎市消防団 副団長 高橋 喜良
草津町消防団 副団長 政次 康宏

消防協会定例表彰

高崎市消防団 副団長 美才治和則
前橋市消防団 副団長 摩庭 博己
安中市消防団 副団長 寺島 良一
千代田消防団 団長 山川 明彦
中之条町消防団 団長 川合 宣之
片品村消防団 元団長 田邊 伸幸
みどり市消防団 団長 星野 典秋

「表彰者総数

三三七一名 三団体

☆功労章

一三六名(三〇名)

☆永年勤続功労章

三五三名(四六名)

☆精績章

四九二名

☆精勳章

五二五名

☆永年勤続退職者表彰

五二三名

☆三世代伝承等優良消防団員顕彰

三八三名(七一名)

☆無火災表彰

八名

☆桐生市消防団桐生方面第九分団四年

桐生市消防団新里方面第三分団三年

☆片品村消防団第七分団 十二年

()内は消防職員数で内数



消防団紹介

消防団員募集

問い合わせ：各市町村役場へ



南牧村消防団

南牧村は群馬県の南西部に位置し、村域は東西に二・六五キロメートル、南北に九・二キロメートルで、面積は一・八八三平方キロメートルです。標高は最低三二〇メートルから最高一、四四二メートルあり、四方を山に囲まれている人口一、九〇〇人ほどの小さな村です。

我が消防団は平成二十三年度に再編がされ、現在九分団、約一五〇名の団員が活動していますが、人口減少や加齢に伴い、団員への負担も日々大変さを増しています。さらに、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が増えていることから、普段からの啓発活動がより重要になってきています。火の取り扱い方法の確認や火災報知機の設定など、これからさらに重点的に行っていくかなくてはなりません。しかし、団員の確保は今後ますます困難となる



平成29年度に配置されたバイク。右が緊急走行用、残りが一般走行用

難となることが予想され、この数年再編の機運が高まり、より機能的で小回りのきく団編成を目指し、現在検討を重ねている現状です。

ところで、消防団の特性は「地域密着性」「要員動力」「即時対応力」とよく表現されます。現在の南牧村の現状は、消防団員が区域内に居住していないケースもまれではなく、風間は村外の職場で働いている団員が多数いることから、有事の際にはそれぞれの職場の理解と協力、そして何よりも団員の郷土愛で「動力力」と「対応力」が活かされているように感じています。

このようなか、平成二十九年度に四台の赤バイ（緊急走行可能バイク一台二五〇CC、活動バイク三台一二五CC）を配備し、各分団員に希望を募り現在十一名の団員が、火防巡察等で練習を重ねています。本村は山村地域であり道路幅も狭く消防車では入りにくい箇所も数多くあるため、情報収集、避難の呼びかけ等にも活動が期待されています。今後は、安全運転講習等を行い有事の際に対応できるように体制を整えていきたいと考えています。

活動は、年々厳しい状況になりますが、行政や消防南牧分署と協力して、住民の生命と財産を守るため、団員一同より一層の努力をする所存です。

高山村消防団

高山村消防団は、団員数一三三名、四個の分団から構成され、全九台の消防車を所有しています。有事の際は、全分団が出勤することとなっていますが、高山村は大きく二つの地区に分かれており、主に中山地区を第一分団と第二分団、尻高地区を第三分団が管轄としています。日中に火災等が起きた場合は、役場分団が迅速に対応できるようにCAFS装置付消防ポンプ自動車を配備しています。

大木牧男団長指揮の下、「自分達の地域は自分達で守る」という強い信念を持ち、村民の安心安全を守るよう日夜活動しています。

また郡内の町村消防団や吾妻広域消防本部等とは、有事の際に協力し合えるよう、「絆」を大切に、体制の整備を行っております。

毎年十月に行われる秋季点検では、部隊訓練やポンプ操法、ラッパ吹奏等を行い、火災が起きやすい季節へ対応できるよう準備をしています。また、年間を通して予防消防にも力を入れ、全体訓練や、各分団で山火事パトロール、火防廻り、村内各地区の方々と合同で消火栓の使用訓練などを行っています。

雇用形態の変化や少子高齢化の影響により、今後は団員の確保が困難な状況が見込まれます。村や村議会の理解の下、団員報酬の増



点検状況

額や、団員各個人への報酬振込、準中型自動車運転免許取得費補助制度の開始等を行い、消防団員として活動しやすい環境づくりを行っています。今後の課題として取り組んでいく所存です。

また、近年温暖化の影響等により大規模な災害が増えてきています。そのような状況においても村民の生命、身体、財産、安心安全を守るよう活動していきたいと思



「第四十八回消防救助技術関東地区指導会 (水上の部)」 群馬県消防長会

七月十八日(木)、高崎市浜川プールにおいて「第四十八回消防救助技術関東地区指導会(水上の部)」を開催しました。群馬県では初めての開催となり、七種目の訓練に関東地区内四消防本部(うち県内六消防本部)、二〇七人(うち県内三六人)の隊員が参加、約一、三〇〇人の来場者があり県内十一消防本部が一丸となつてもてなし大盛況に終わりました。

この指導会は、県指導会、地区指導会を勝ち抜き全国大会へと通じる大会で、消防救助活動の安全性・確実性・迅速性、そして隊員に不可欠な体力、精神力と技術の向上を図ることを目的に毎年開催されており、各都県から選ばれた精鋭達が一室に会し日頃の訓練成果を遺憾なく発揮しました。

なお、各訓練種目及び群馬県参加消防本部の成績状況は、次のとおりです。



第48回消防救助技術関東地区指導会訓練状況

訓練種目	県内消防本部名	入賞及び全国大会出場状況
複合検索	前橋市消防局	入賞
	高崎市等広域消防局	入賞
	伊勢崎市消防本部	入賞
基本泳法	前橋市消防局	入賞
	高崎市等広域消防局	入賞
	桐生市消防本部	入賞
溺者搬送	太田市消防本部	入賞
	多野藤岡広域消防本部	入賞
人命救助	前橋市消防局	—
	太田市消防本部	入賞
溺者救助	伊勢崎市消防本部	全国大会出場(全国大会入賞)
	太田市消防本部	全国大会出場(全国大会入賞)
水中結索	伊勢崎市消防本部	入賞
	太田市消防本部	—
水中検索救助	高崎市等広域消防局	入賞
	太田市消防本部	入賞

「解体前建築物を使用しての複合訓練の実施」 館林地区消防組合消防本部

館林地区消防組合消防本部では、九月十九日(木)、二十日(金)の二日間、邑楽館林農業協同組合の協力のもと、解体前の建築物「旧中野支所」を活用し、消防隊と救助隊の合同訓練を実施しました。

主に、各種救助資機材の取扱いを実施し、鍵のかかった鉄製の扉やシャッターを開放する「施錠扉等開放訓練」、倒壊建物から生き埋めと



訓練参加隊員

なった要救助者を救出するため、隊員が進入する開口部を作成する技法「ブリーチング」等を中心とした「震災対応訓練」、そして濃煙の充満した建物内での要救助者と火点の検索を目的とした「耐火建物火災想定訓練」を実施しました。

今回の訓練をより有意義なものとするため、そして地域住民の安全と安心のために、当消防本部はこれからも総合的な消防戦術の向上に努めてまいります。



訓練状況

「予防部会の活動」

群馬県消防長会

今年度、予防部会では県内各消防本部(同)職員を対象に二つの事業を予定しており、最初の事業は十月二日(水)、総務省消防庁違反是正相談担当弁護士を講師に招き「違反処理に係る法律知識」をテーマに特別講演会を桐生市市民文化会館で開催し、約一五〇名が聴講しました。

今後、令和二年二月頃に、違反是正に関して豊富な知識と経験を有する県内消防職員の違反是正アドバイザーのご協力いただき「違反処理研修会」を開催予定です。

予防部会では違反是正を中心とした法令改正の運用方法等の研究を行うことにより、その結果等の情報を共有し、予防技術の向上を図っていきたくと考えております。



特別講演会の状況

「全国女性防火クラブの集い」・「第二十回応急手当普及啓発推進会議」及び「令和元年度群馬県女性防火クラブ指導者育成研修会」について

群馬県女性防火クラブ連絡協議会事務局

○「全国女性防火クラブの集い」及び「第二十回応急手当普及啓発推進会議」

令和元年十月二十八日(月)から二十九日(火)にかけて、東京都のホテルルポール麹町で開催された「全国女性防火クラブの集い」及び「第二十回応急手当普及啓発推進会議」に群馬県女性防火クラブ連絡協議会から小俣会長、瀬藤副会長、榎田監事の三名の役員が出席いたしました。

「全国女性防火クラブの集い」では、「ホンネとホンキで必ずくる震災を乗り越える」と題して、名古屋大学減災連携研究センター長・教授 福和 伸夫氏の講演がありました。時折ユーモアを交えながらの講演であり、楽しく聞くことができました。同時に、様々な防災に関する知識を学ぶことができ、非常に勉強になりました。次に、消防庁防災課長、消防庁予防課長から大規模災害や住宅火災に対する消防庁の取組について講演がありました。

一日目最後には「女性の視点をいかした地域防災」と題して兵庫県立大学減災復興政策研究科・准教授坂本 真由美氏から避難所などにおける女性の視点の大切さについて講演がありました。

一日目の「第二十回応急手当普及啓発推進会議」では、宮城県婦人防火クラブ連絡協議会と静岡県女性防火クラブ連絡協議会の二地区から救急講習の実施状況について発表がありました。最後に消防庁救急企画室課長補佐から救急業務の現状と課題、それに対する消防庁の取組について講演がありました。

二日間にわたる研修会で、多くのことを学ぶことができました。今回得た情報や知識を本県の防火クラブ員の方に伝えていきたいと思っております。

○令和元年度群馬県女性防火クラブ指導者育成研修会

本研修会は、各地区女性防火クラブの指導者として必要な知識の習得及び士気高揚を目的として県内女性防火クラブ幹部を対象に毎年開催されているものです。今年度は令和元年十月二十五日に群馬県公社総合ビルで開催し、県内各地から総勢一六〇人が参加し、盛況を博しました。

第一部では、「利根沼田婦人(女性)防火クラブ連絡協議会」と「藤岡市女性防火クラブ」の二地区による活動状況発表が行われ、第二部では、「災害から地元

を守る「自主防災の活動」と題して日本防災士会群馬県支部飯塚支部長から講話をいただきました。

女性防火クラブ員にとっては、身近に感じられる話題も多く、会場では熱心に

住宅用火災警報器の設置率向上に向けて

藤岡市女性防火クラブ会長 高橋陽子

藤岡市女性防火クラブでは住宅用火災警報器の設置率向上のため、様々な活動を行っております。

昨年度、当女性防火クラブが独自で行ったアンケートの結果では、設置していない方からは「自分の家は大丈夫」、「買っても設置してくれる人がいない」等の声が挙がりました。特に後者は高齢者の方に多く見られました。また、既に設置している方でも「設置してから点検を行っていない」、「十年を目安に交換が必要なことを知らなかった」等のお話を聞くことができました。当女性防火クラブでも、積極的に普及啓発活動を行っており、その甲斐あってか、設置率



秋季消防点検時に火災警報器のアンケートを実施

も年々上がってきていますが、まだまだ未設置の家庭が多くある現状を実感することができました。

その結果を踏まえ、十月十九日(土)、市内のスーパー三

メモを取るクラブ員の姿も多く見られました。

研修は長時間に及びましたが、参加の皆様のご協力により大変有意義な研修会となりました。



スーパーで住宅用火災警報器の設置呼びかけ

店舗で住宅用火災警報器の普及啓発活動を実施しました。啓発活動には、消防署員の方もご参加いただき、スーパーに来店した人へ声をかけ、住宅用火災警報器についてのチラシを配布しました。

住宅用火災警報器の設置が義務化されて早いもので十三年経ちます。設置済みの家庭であっても、義務化当初に設置した場合は交換の必要性が出てきます。未設置の家庭に対する普及啓発はもちろんのこと、設置済みの家庭に対しても、点検・交換についての啓発活動にも力を入れていきます。

藤岡市女性防火クラブは、他の女性防火クラブに比べると人数も少なく、活動規模も大きくはありません。ですが、関係機関との協力や、クラブ員相互の連携を図ることにより、少数先鋭で家庭と地域の防火・防災に関する意識向上のため積極的に活動していきます。

「第二十四回全国女性消防操法大会」に出場して

沼田市消防団長 関口 元雄



第二十四回全国女性消防操法大会(令和元年十一月十三日)に群馬県代表として沼田市消防団女性消防隊ソレイユが出場しました。大会を無事に終えることができましたのも、群馬県消防協会をはじめ、沼田市女性消防隊を応援していただいた多くの方々との支えと、熱心に指導していただいた群馬県消防学校、利根沼田広域消防中央消防署のお陰と深く感謝しております。あわせて、長きにわたり訓練を重ねて、全国大会という大舞台で立派な操法を披露した女性消防団員に心より感謝します。

沼田市消防団女性消防隊ソレイユは、女性ならではの視点やきめ細やかさを取り入れ、より地域に密着した消防団にし

ようという目的で発足しました。女性団員を募集するにあたり、平成二十九年二月、全国に先駆けて女性団員が活躍していた長野県上田市消防団を視察し、募集方法や活動内容などの情報交換を行いました。

そして、平成三十年四月、一般公募により集まった一六名で活動を開始しました。現在は団員も増え、二一名で活動しており、火災予防などの普及啓発を行っています。また、消火栓を使用した初期消火訓練や、普通救命講習を受講し自らのスキルアップを図る他、歳末特別警戒では他の団体とともに市内の水利点検なども行っています。

令和元年度は、大会出場へ向け、六月



から利根沼田広域消防中央消防署、市内商業施設の駐車場などをお借りして毎週二回の訓練を開始しました。ホース展張や操法動作など、基礎的な練習からのスタートでしたが、真摯に取り組み隊員の姿に感服いたしました。十月二十日に行った激励会では、多くの来賓や団員が見守るなか、訓練の成果を發揮し、素晴らしい操法を披露することができました。その姿は団全体の士気高揚に繋がったと感じています。

大会当日は、前日リハーサルの好天と一転し、肌寒い中での競技となりましたが、選手、女性隊、応援団が一致団結し、上位を目指しました。残念ながら入賞には届きませんでしたが、選手は訓練の成果を十分に發揮し、感動を与える操法を見せてくれました。

この経験は、女性消防隊の活動に大き

な財産として残ると思います。また、私自身もこれまでの消防団人生における最良の経験ができたと感じています。

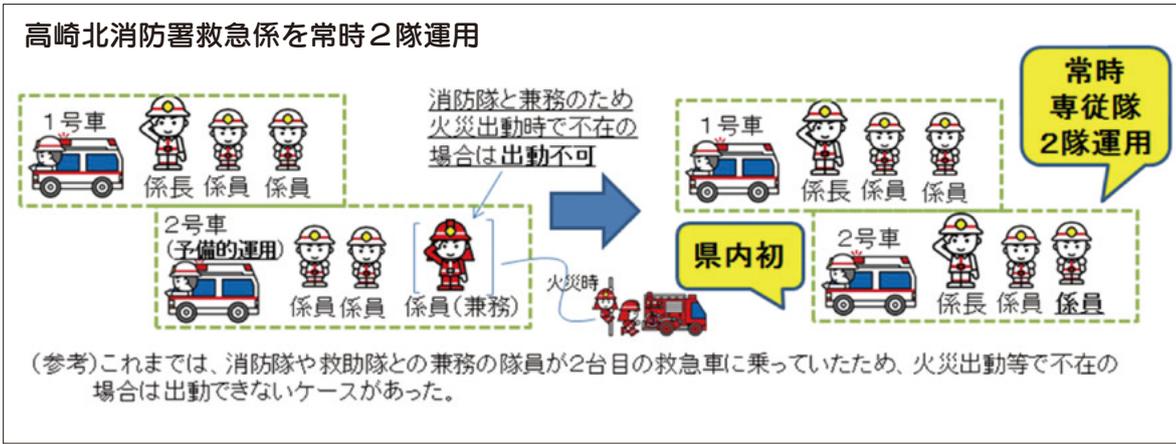
女性消防隊の活動はまだまだ発展途上ですが、消防団の組織活性化、地域における女性リーダーの育成など様々な効果が期待できます。全国大会への参加で得た貴重な経験とスキルを活かし、地域に根ざした活動を通じて、支援していただいた皆様への恩返しができるものと期待しています。

結びに、地域防災力の中核を担う沼田市消防団を目標に、引き続き消防団活動に励み、地域住民の皆様や地元企業、各種団体と協力して防災力の充実強化を図り、安全安心なまちづくりに尽力していきたいと思えます。



救急体制の充実について

〔平成三十一年度消防局の組織〕 高崎市等広域消防局



高崎市等広域消防局は、構成市である高崎市が展開する「高崎市救急医療体制緊急改善プラン」及び安中市が展開する「安中市救急医療体制整備補助制度」を推進し、管内の救急需要に対応してきたところですが、更なる救急需要の増加及び業務の高度化への対応として、平成三十一年度から救急業務に関する消防局の組織を充実・強化しています。

一 高崎北消防署救急係を常時2隊運用

【県内初】

消防局の一年間の救急出動は、平成三十年に二〇、一二四件となりました(救急需要は、直近の十年で四・七%の増加、直近の五年で一四・五%の増加)。特に高崎北消防署の救急件数が増加していることから、救急の専従隊をこれまでの一隊から二隊編成にしました。

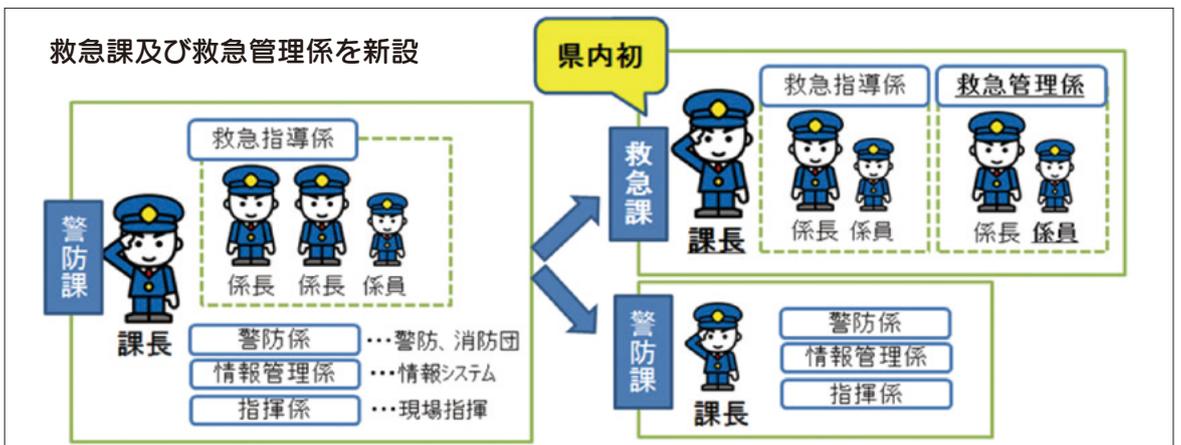
これにより、現場到着時間の短縮を図り、住民サービスの向上を目指します。

二 救急課及び救急管理係を新設

【県内初】

救急需要の増加・高度化(事後検証、救急指導教育等、質の向上)、救急に関する情報公開及び訴訟事務、普通救命講習(AED)の推進、各種研修等を適切に実施するため、「救急課」及び「救急管理係」を設置しました。

「救急課」は消防局の救急体制の統括的役割を担います。



三 バイスタンダーの積極的養成

〔救命率向上を目指して〕

救急車が現場に到着するまでの時間は、全国平均約九分です。救命率の向上のため

には、バイスタンダー(応急手当のできるその場に居合わせた人)を数多く養成する必要があります。

救急課では、平成三十一年度から、バイスタンダー養成のため、企業と連携した「普通救命講習Ⅰ」を開催しています。

消防局では、平成三十年十二月に、一般財団法人救急振興財団から、救急普及啓発広報車を受贈しました。更なる救命率の向上を目指して、バイスタンダーの養成のため、出向形式の救命講習会、消防・救急フェア等の各種イベントでAEDの使用法を含めた講習会を積極的に開催し、地域住民に対する応急手当普及啓発の推進に努めます。



救急普及啓発広報車による啓発活動

群馬県殉職消防職団員慰霊祭を挙行

「この慰霊碑に祭られた方々は、いずれも、消防職団員として職務を遂行する中、身を挺して危険に立ち向かわれ、尊くもその職に殉ぜられた方々です。我々は、殉職された方々の強い正義感と深い郷土愛に崇高な消防精神を規範とし、これまでに以上に、災害に強く、安全で安心して暮らせる地域作りに取り組んでまいりますことを、ここにお誓い申し上げます。」と式辞を述べ、その後、ご遺族、ご来賓等の参列者の皆様が献花が行われ、殉職者の御霊に対して敬意を表するとともに、安全・安心への誓いを新たにいたしました。



令和元年十一月七日(木)群馬県消防学校の慰霊碑前において、群馬県殉職消防職団員慰霊祭が、ご遺族の方々をはじめご来賓の皆様、消防協会役員・消防関係者など一三三名のご参加を頂き厳粛に執り行われました。今回新たに昨年八月の防災ヘリコプター「はるな」の事故により殉職された消防職員の御霊七柱が合祀されました。

群馬県消防協会会長である山本知事は、「この慰霊碑に祭られた方々は、いずれも、消防職団員として職務を遂行する中、身を挺して危険に立ち向かわれ、尊くもその職に殉ぜられた方々です。我々は、殉職された方々の強い正義感と深い郷土愛に崇高な消防精神を規範とし、これまでに以上に、災害に強く、安全で安心して暮らせる地域作りに取り組んでまいりますことを、ここにお誓い申し上げます。」と式辞を述べ、その後、ご遺族、ご来賓等の参列者の皆様が献花が行われ、殉職者の御霊に対して敬意を表するとともに、安全・安心への誓いを新たにいたしました。

「女性消防団員確保研修会」を実施しました！

全国的に消防団員が減少傾向にある一方で、女性消防団員は増加傾向にあります。このような中、女性消防団員の活躍の気運を高め団員確保につなげるため、新たな取組として、令和元年十二月七日(土)に消防学校において、「女性消防団員確保研修会」を群馬県と群馬県消防協会の共催で開催し、女性消防団員二八人、市町村・消防本部職員一四人、計四二人に御参加をいただきました。

第一部では、まず、沼田市総務部防災対策課の笠原氏による講義があり、平成三十年に女性消防隊「ソレイユ」を立ち上げた経緯などをお話いただき、予算の確保など、具体的な話が織り込まれており、参加した方々が熱心にメモをとる姿が見られました。その後、六グループに分かれ、「女性消防団員を増やすにはどうすればよいか」などのテーマについてディスカッションを行い、各グループで活発な意見交換が行われました。

第二部では、消防学校教官の指導の下、「ポンプ運用訓練」を行い、二重巻きホースの巻き方や延長方法、筒先の交代方法等の訓練を行い、熱心に取り組まれておりました。

ディスカッションで出た意見やアンケートの回答を、今後の消防団員確保施策に活かしていきたいと考えております。

全国的に消防団員が減少傾向にある一方で、女性消防団員は増加傾向にあります。このような中、女性消防団員の活躍の気運を高め団員確保につなげるため、新たな取組として、令和元年十二月七日(土)に消防学校において、「女性消防団員確保研修会」を群馬県と群馬県消防協会の共催で開催し、女性消防団員二八人、市町村・消防本部職員一四人、計四二人に御参加をいただきました。



県内の消防の現況 (令和元年10月1日現在)

消防団員数	11,488人	(前年比 164人減)
男性	11,319人	(前年比 178人減)
女性	169人	(前年比 14人増)
消防職員数	2,544人	(前年比 10人増)

消防団員募集

お問合せ先：各市町村役場へ



2019年度全国統一防火標語

「ひとつずつ いいね！で確認 火の用心」

発行所 公益財団法人 群馬県消防協会
 前橋市大手町一丁目1番1号
 群馬県総務部消防保安課内
 TEL 027-220-1338
 URL <http://www.gunma-syoubou.jp/>
 編集発行人 公益財団法人 群馬県消防協会
 常任理事 稲原 信行
 印刷所 朝日印刷工業株式会社

編集後記

令和元年は大型の台風が次々に襲来し、全国的に被害が広がり、県内でも多くの被害が発生しました。亡くなられた皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

こうした災害の現場において、防災活動に献身的に携わって頂いた地元消防団をはじめとした方々の働きに、改めまして敬意を表し、感謝を申し上げます。 「自分の身は自分で守る」の精神で、災害に備えることが重要であると再認識したところです。